

## 令和5年度第1回七尾市部活動のあり方検討委員会 会議録

1 日 時 令和5年11月30日（木）15時58分～17時05分

2 場 所 災害対策本部室

3 出席者 八崎 和美 委員長（七尾市教育委員会）  
佐原 鉄郎 副委員長（NASPO）  
大森 重宜 委員（金沢星稜大学人間科学部教授）  
國下 正英 委員（（公社）七尾市スポーツ協会）  
柘植 英一 委員 代理内田 一哉（田鶴浜スポーツクラブ）  
前田 忠久 委員（なかじまスポーツクラブ）  
谷内 博史 委員 代理原田 浩喜（能登島少年少女スポーツクラブ育成会）  
野見 英輝 委員（七尾市小中学校校長会）  
山原 真吾 委員（七尾市中学校長会部活動検討委員会）  
鳥木 隆 委員（七尾市PTA連合会）  
高木 伸安 委員（七尾市PTA連合会）

松村 和浩 教育部長  
観音 和繁 教育総務課長  
奥原 真弥 学校教育課長  
善端 直 スポーツ・文化課長  
見里 博之 教育総務課参事  
小林 義和 スポーツ・文化課課長補佐  
岩端 長紀 スポーツ・文化課主幹  
川向 藤和 教育総務課主幹

オブザーバー（坪野 昭（七尾市立能登香島中学校長））  
（湊口 登志子（七尾市立中島中学校長））  
（白田 剛（七尾市スポーツ協会））  
（黒崎 直人（七尾市行政アドバイザー））

### 4 議事録

#### <開会>

（八崎委員長）

本日は、ご多用のところ七尾市部活動のあり方検討委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。昨年、皆様方のご協力により検討委員会を立ち上げ、1年間議論を重ねてまいりました。令和5年度は、中島中学校の運動部活動を、休日の地域クラブ活動のモデル校に選定し、部活動の地域移行の課題等の整理を行っているところであります。また、今年度から部活動が希望加入制となり、各学校の状況も変化してきております。部活動の加入状況や教員が部活動の顧問となって指導する現場の声も聴きながら、周辺自治体の動向も注視し、この事業を着実に進めてまいりたいと考えております。少子化の中でも将来にわたり、子供たちがスポーツ・文化芸術に親しめる機会の確保に向けて、部活動の地域移行に当たっては、地

域の子供たちは、学校を含めた地域で育てるという意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるように、環境整備を考えていきたいと思っております。委員の皆様方には、これまでの経験を活かし、いろいろな面からご意見をいただき、今後の円滑な地域移行にご協力いただけることに感謝を申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

<委員の出席>

全員参加（代理含む）

<議事>

（八崎委員長）

次第に従い会議を進行するので、スムーズな進行に協力をお願いします。

それでは、会議次第2の議事に入る。「学校部活動の地域移行について」および「学校部活動の地域移行の現状報告等について」一括して事務局から説明をお願いします。

【協議事項】

《学校部活動の地域移行について、学校部活動の地域移行の現状報告等について》

（観音教育総務課長）説明

（八崎委員長）

ご意見ご質問はありませんか。

（國下委員）

確認ですが、資料2の6番の小中共通とあるが、小学生と中学生は違うのではないか。

（観音教育総務課長）

細かい内訳は言えないが、小学校の先生と中学校の先生を共通してクラブの指導者になっても良いというようなそういう状態です。

（國下委員）

中学校の部活動だから小学校の先生がやるのは矛盾するのではないか。

（観音教育総務課長）

クラブですので、小学生のスポーツ教室の中学生の拡大版みたいなイメージ。小学生の先生も指導はできるし中学校の先生も指導はできる。あくまでも仕事が終わってからクラブ活動の指導をするということです。

（八崎委員長）

よろしいですか。

（國下委員）

すごい少ないということですね。わかりました。

(高木委員)

ガイドラインのところで、地域クラブ活動への移行に向けた環境整備の下のところに、令和5年度から令和7年度までに目指して移行していくというふうな内容だったかと思うんですけども、可能な限り早期の実現を目指すという形でなかなか3か年では難しいという記事があった。七尾市の目標はどの辺りを目指しているのか今の説明では分からなかった。どうなんですか。

(観音教育総務課長)

国が示していますが、3か年の改革推進期間でしなさいと当初なっていた。ふたを開けてみると指導者の確保ができないとクラブ化ができない。都会のほうではある程度指導者はいると思うが、地域になると指導者のなりては少ない。その実情を受けて、可能な限りということでは表記が変わってきたと思う。七尾市についても引き続き指導者の確保はしていき、スポーツクラブ等の立ち上げもしくは小学校の部分で中学校を受け入れるお願いはしていかないと駄目だと思うが、相手がいる話なので引き続き地道にやっていく。いつごろかは言えない状況です。

(八崎委員長)

部活動指導員を増やしていったら、小学校教員も対象にして少しずつ増やしていくけど、いつまでにどうなるかということは、まだ詰めないとならない状況だと思う。

(高木委員)

私も指導したことがあるからそうだと思うところはある。資料1のところにもあるが、子供もいて当事者になるが、保護者からの意見としては、学校対抗というのが根強い。例えば特に小さな学校はスポーツを選べないというところで大きな学校に行く。そこに行かないからスポーツができないというところで非常に子供には可哀そうなところがあると意見を聞いたことがある。部活そのものの仕組みが変わらないというような回答になると思うが、中学校を越えた形でクラブに入れるような仕組みがもしできれば非常に有難い。部活の中でクラブ化していくようなイメージであると思うけども選ばれるような環境を作ってほしい。

(前田委員)

今、中島中学校がモデル校になっている。市内でここだけか。

(八崎委員長)

現段階はそうだ。

(前田委員)

中島の先生と話していて、いずれは今の発言のような形になってくる。今年の小学校1年生は15人ぐらいになる。中学校へ行って何かをやろうとなっても手一杯。必ず今みたいな問題が出てくる。一つの学校だけでは考えられなくなる。そういう時に地域クラブで中島なら七尾や能登香島になっていくのか。中学校に任せしておくのか、市として何か手立てをしながら進めていくのか。学校任せなら出来ないと思う。市のほうはどう考えているのか。もう一つ、市内全域に行き渡るようになったら指導者謝金の予算の裏付けはあるのか。

(観音教育総務課長)

少子化に伴う部活動のあり方ですが、そうになっていくであろうがためにクラブを立ち上げていきたいと思いますというものが国のガイドラインの示すものとなっている。部活動だけでいくと合同のチームで対応するしか公式の大会には出られない。基本的には公式大会には単一の学校でしか公式大会には出られないこととなっている。部活動だけでいうと、学校の部活であれば、単一の学校で出る、もし叶わないのであれば合同チームを作って出るのが部活動の原則になっている。クラブの部分としては、大会に出られるという条件になっているが、基本的には団体競技についてはクラブで出てもいいが単一学校しか公式大会に出られませんというのが中体連の見解になっているので、まずはそこが原則となっている。持っていく方とすれば、合同のチームをクラブ名で出るとイメージしている。原則学校一つの単位で公式大会出るのが原則。将来的に中体連の大会がもし見直して学校単位も複数可能になってくれば、その部分もクリアできると思うが、今のところはそういう現状になっている。クラブについては、公式の大会は別として練習場であったりスポーツを勤しむ場として制限はありませんので、クラブについては誰が来ても受入れられるのがクラブチームだと思っている。クラブの運営は、部活動と違って受益者負担と思っている。市のほうに謝金というのではなくて、保護者から月謝等をいただいてそれを運営に回していくのが本来のクラブ活動なので、そういうふうには認識していただければと思う。

(八崎委員長)

現状では合同チームとクラブであれば受益者負担で対応している。中体連が変わってくれば違う形も出てくるということだね。

(観音教育総務課長)

中体連もクラブが入ることによって、優秀な選手を集めて選抜チームができるとクラブチームが全国大会に行く。何のための中体連の大会なのか目的が損なわれる。

(山原委員)

関連して、少子化が進んでくるということの中で、学校の現場でも進んでいる。子供の数が減れば学級数が減り、配置される教員の数が減ってくる。そうなってくると、今ある部活動が維持できない状況が直近にきている。学校現場でいうと、再任用教員のフルタイムの方は通常勤務の教員と同じように部活を持ってくれるが、ハーフタイムの方は部活をもっていない。例えば職員数は30人いるがハーフが5人いると、実質部活を持てる方は25人しかいなくなる。そういう学校の状況になってきていて、もう間もなく部活の数をどうにかしていかなければならないことが見えてきている。そうなったときにうちの学校として単純に部員が減ってきたのでこの部を無くします。隣の学校も部員が減ってきたから無くしますという形で同じ部活が無くなってしまっていて、例えばバスケットボールでA中学校B中学校C中学校の部が無くなってしまいう形をとっていいのか。そこに市として見解を示して1年生においては部活動を条件に区域外就学が認められるので、じゃあA中学校にこの部を残しましょう、B中学校にこの部を残しましょうみたいな話が、どこにイニシアチブをもって部を減らしていくのかを考える時期にきていると思う。

(松村教育部長)

部活動の地域移行については、学校の責任あるいは教員の負担を減らすということ、それを地域で担うということで、部活動指導員不足で部活が消えるということを防ぐために代替するために地域のクラブ活動に移していく。その指導者については将来的なクラブ移行後の体制では指導員がいて、その間をつなぐものとして部活動指導員を増やす、それによって結果的に教員の負担も減る。将来のクラブ化移行後の指導者の発掘をするようなスタートの現状認識があって、将来的にすべて地域クラブ活動に移行するとして、その間の克服すべき課題の学校の負担軽減と子供たちの選択肢を減らさない、これを両立しなければならない。前田委員からもありましたように、市教委のほうでしっかりイニシアチブをとって、その間をつなぐ役割を果たさなければいけない。部活動指導員を増やすことについては当然予算が必要になるので、それは教育委員会としてしっかり確保できるように来年度以降取り組んでいくことなると思う。

(大森委員)

大学で指導者論をやっている。最近の問題は、若者は指導者なりたくない。全員が取っていたが今は3分の1ぐらい。教員をやりたくないと比例する話。指導者の宝はたくさんいる。ただ現場に出たくない理由は自信がないんです。愚かな指導者は過去を見て自分の経験だけでやるので上手くいきません。賢い指導者は未来を見る。その未来を見れる仕組みを作らなければいけない。七尾の若者でもたくさんいるはずですから。名前も何人も出てくる。頼釣りしてでも連れてこないといけないうことだと思う。ネガティブな話にしないで、前向きな話にしていきたいと思う。

(内田委員代理)

2月27日の会議の中で、市として部活動指導員の5人に対しては謝金が出ると伺っている。先ほどの話で基本的には受益者負担は大事だが、前回指導者を増やす意味では予算裏付けは必要だから予算確保のために話し合いをしますという話があったが、先ほどは保護者が出すべきだとあった。市としてどのようになったか教えていただきたい。

(松村教育部長)

それについては変わっていない。観音課長が言ったのは、クラブ活動の受益者負担のこと。そのクラブ活動にいく一歩手前の指導者の開拓のところという市において部活動指導員を現在の5名から少しずつ増やしていく。その費用については市のほうで予算措置をして準備していく。クラブ活動となったときには保護者に負担していただくのは原則ですが、それに行くまでの指導者の開拓にあたっては部活動指導員の制度を活用して指導者を増やしていきたい。

(鳥木委員)

学校から移動する際の移動手段は保護者が責任をもって移動させるのか、学校で持っているバスを動かしてくれるのか、どうイメージしているか。

(観音教育総務課長)

保護者の送迎もしくは生徒が自ら公共交通等で移動する形になる。冒頭でも申し上げたが、小学生のスポーツ教室と同じで小学校から家に一度帰るのか、近くの体育館に児童が移動して引き続きスポーツ教室をするイメージになる。その中学生版とっていただきたいと思う。

(内田委員代理)

小学校は数が多く、練習場までの体育館やグラウンドは近い。これが中学校になると、田鶴浜であれば七尾中学校から田鶴浜まで来るのは簡単なことではない。その部活がしたいとなると、その学校に行くしか道はない。先ほどPTA会長が言われたように、保護者で一番大きい課題は足の問題。それが解消できるのであれば、子供たちのスポーツクラブのイメージはある意味理想だが、保護者にとっては最大の問題。それを家庭にお願いとなったら先に進めない気がする。どうするかは難しい話だが、受益者負担は小学校の時から保護者が負担してくれているので理解を求めるのは簡単だと思う。中学校が七尾中学校へ行ったという中で、近くから無くなったから一番痛感しているが、中学校の部活の姿は見えない。部活が休みの日にもう少しやりたい子供たちが夜に来る。それに対して親がその時間帯ならば来れるイメージが強い。田鶴浜スポーツクラブで小学生も中学生もそうだが、去年から夜9時、10時まで小中学生が使っているのかとなっていて、体育館は2面しか取れないので冬になると時間を詰めながら柵を埋めている。子供たちが10時に終わると家に帰るのは何時かとなる。暗くなる冬の部分だけ体育館を閉める時間を早めている。

(大森委員)

私見だが、合同練習の日と分散練習の日がある方法が、解決策になるのではない。野球なら9人集まらなくてもやれる練習というのを皆さんで考えてもらって、週末はどこかで集まってやるというのも一つある。ただし、その日どんな練習をしているのか、佐原委員がやっているオンデマンドで練習方法を流して、その練習を週末に披露する。何かしらそういう工夫をしないと駄目だと思う。

(内田委員代理)

学童野球も成り立たないので、今年の新人戦から田鶴浜と中島がくっついて1チームでやっている。合同でやるのは難しく、負担を軽くしようと半分は向こうへ行ったり、半分はこっちへ来たり、合同で練習するときは夜7時からとかやっている。工夫も当然必要。今まで通りのことをやろうとしたら無理。

(大森委員)

生活習慣をしっかりさせることがある。スポーツ選手は夜12時過ぎまで起きている人が多い。これは二流選手の特徴。早く起きて早く寝る大谷選手じゃないんですけど、そういう習慣をつける。夜何かしらの生活習慣をしっかりするんだという、そのこともポジティブに考えたら9時になったけども勉強もしっかりやり、食事もあるというふうな子供たちに、時間の使い方が上手な子供たちを作ろうという工夫するような何かしら対応することもある。

(八崎委員長)

クラブ化になったときに、移動の問題を検討してほしいという意見でよいか。

(内田委員代理)

これが良いという解決策が浮かばないのでお願いしたい。

(八崎委員長)

検討課題ということでお願いします。

(原田委員代理)

あり方検討委員会は、活動場所までの移動がポイントになると感じている。能登島スポーツクラブはクラブが5つ有り、受入れクラブ一覧の能登島相撲教室に関しては、能登島小学校の子供たちは一人も在籍していない。活動場所は石崎で活動している。能登島の子供にとって相撲の人気の無くなったというのもあるが、石崎・和倉の子供が多いので、活動場所を移すことで、その場所まで行けなくなった。アンケート調査のところにも中学校の現状で約2割が未加入で、地域クラブで活動している子供たちもいるので9割は運動しているということだけでも、ジュニアの子供たちが中学校に入って、部活動をしようとなったときにアンケート結果の9割の運動している生徒が維持できる見通しはもっているかどうか。例えば、学校ごとに選択できるような部活があればその中で納まって放課後の時間帯で活動ができると思うが、こちらの学校ではこの部に力を入れるという形で活動場所がバラついたら保護者が送迎できるのか。教員の負担軽減ももちろん大事だが、子供の体力の低下がいわれている時代の中で、中学校で体育の授業が減っていく、七尾として10年後、20年後、30年後に七尾市を背負っていく子供たちが、心豊かに育てていこうというまちづくりじゃないですか。地域のスポーツクラブ活動を七尾市がどれだけ支えていけるのかというのが大事になってくる。視点が教員の負担軽減だけじゃなく、七尾市として広い視点で考えていかないと運動をする子供は減っていくと思う。やりたくてもその場所まで行けない状況に近い将来出てくると思う。活動したい子供が活動場所へいかにして行けるかを真剣に考えていかないと。別の会議で市長がプロスポーツ選手と触れ合うことで憧れを持って運動に興味を持ってもらって広げていきたいという思いがあるのであれば、触れ合って憧れを持たしたあと、じゃあ頑張るやろうとなつて、その場所へ行くための環境を整備するのが七尾市だと思っている。受入れ可能一覧にたくさん載っていて、選択肢がたくさんあるように思うが、実際生活している場所からその活動場所へどれだけ行けるか。おそらく2つか3つしか選択肢がないと感じている。

【大森委員退席】

(八崎委員長)

移動の問題は検討してほしいと意見をもらった。将来の生涯スポーツにどう繋げていくかの視点で、単なる地域移行・クラブ化が目的ではなく、七尾の子供たちが大人になってもずっとスポーツを続けていける、市のスポーツ振興のあり方を踏まえたうえで、委員会では提案をしているつもりです。

(佐原副委員長)

資料4(市内地域クラブで中学生を受入可能なクラブ一覧)で代表者・指導者の欄があるが、資格を持っている指導者はどれくらいいるのか。

(観音教育総務課長)

把握していない。

(佐原副委員長)

学校で陸上をもった延長で子供を教えて20年経つが無資格だ。無免許でずっと教えてきた。25・26日に資格を取りに行ってきた。大変きつい講習会だった。そういう事をしていかないと賄えないと思う。一人最低でも5万以上は掛かる。そういう補助も考えていただきたい。

(観音教育総務課長)

今後の取組みというところで、部活動からクラブで大会等に出場の条件として、審判資格や指導者資格を持っていないと大会に出られなくなってくる。市として、ずっとは出せないが、最初に資格を取るときに手数料であったり試験や登録料であったり、いくらかの助成をしていかなければならないと考えている。ただ更新する費用は難しいと思う。

(國下委員)

一回だけじゃ駄目だ。A級、B級、C級と上がっていくライセンスがある。A級ならこの大会にしか出られないとなり、B級ライセンスが必要になるので、細かくやっていると。

(観音教育総務課長)

その辺は検討していく。

(八崎委員長)

検討課題ということでよろしいか。ほかにありますか。では、ほかに無いようなので、次にお手元のアンケートの実施について事務局から説明をお願いします。

《アンケートの実施について説明》

(観音教育総務課長説明)

(鳥木委員)

保護者の方は、部活動の地域移行について理解されていない方がたくさんいるので、アンケートだけ出すのではなくて、ある程度の問題知識を与えるようなことをしていただいた上でしていただきたい。

(観音教育総務課長)

その辺も入れてアンケートをしていきたい。



(八崎委員長)

説明資料を付けてアンケートを実施していくことをお願いする。以上ですべての議事が終わりました。議事の進行にご協力いただきありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

(川向教育総務課主幹)

八崎委員長ありがとうございます。閉会の挨拶を佐原副委員長、お願いします。

<閉会あいさつ>

(佐原副委員長)

今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。アンケートの結果はいつごろになりそうですか。

(観音教育総務課長)

年明け早々にアンケート調査、年度末までに集計していく。

(佐原副委員長)

結果を楽しみにしている。よろしくお願いします。

(川向教育総務課主幹)

ありがとうございました。以上で、第1回七尾市部活動のあり方検討委員会を終了いたします。